
CEニュースター

発行：日本アッセンブリーズ
・オブ・ゴッド教団
教会教育部
第6号
2006年10月

巨人ゴリアテを倒せ

教育局局長 川上良明



ダビデはペリシテびとに言った、「おまえは つるぎと、やりと、投げやりを持って、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエルの軍の神の名によって、おまえに立ち向かう。きょう、主は、おまえをわたしの手にわたされるであろう。・・・

主は救を施すのに、つるぎとやりを用いられないことを知るであろう。この戦いは主の戦いであって、主がわれわれの手におまえたちを渡されるからである」

第一サムエル記 17章45-47節

今日、日曜学校の低迷について事態は深刻さを増しているように思えます。

2005度の教団の最新資料によれば、日曜学校出席者数は2,689人で、前年度より9.3%減となっており、日曜学校の不振が進んでいます。因みにここ十年間の減少率は27%（1995年度の日曜学校出席者数は3,542人）、さらに二十年間の減少率はなんと52%（1985年度の日曜学校出席者数は5,537人）となっており、今、日曜学校の現状をしっかりと受け止るときが来ていると思われます。

かつては日曜学校が教会成長の原動力となり、教会教勢と共に比例して成長してきました。日曜学校の子どもたちが成長して、十年後、二十年後には教会の中心的な働きを担い、献身者が起され、伝道者が生み出されてきました。まさに、日曜学校の成長は教会を活性化し、成長の原動力であって、今日も変わらない原則であると思います。現在、私が牧会している仙台教会は、M・カーロー宣教師により開拓された教会ですが、当初、国鉄の官舎を借用して、100名前後の子

どもたちが集まり、後の教会形成の土台となってきました。また、前任地であった堺教会も、土曜学校子どもたちが中心となって、伝道所が開設され、子どもたちの成長と共に、教会形成が進展した例などを挙げるとき、「日曜学校は教会の原動力」という原則は、侮れないと思われれます。

一昨年（2004年）に日本全国で廃校になった公立学校の数は、555校であったそうです。この数字を見ても、少子化の波が物凄い勢いで迫って来ていることを実感します。確かに、日曜学校の低迷の原因として、少子化が挙げられておりますが、そのような環境の中で、子どもたちが溢れている教会や伝道所があることも見逃してはならないと思います。そのような教会や伝道所に共通することは、日曜学校教師の児童伝道に対する信仰、情熱が教会に溢れていることです。

ペリシテ人、ゴリアテがイスラエル人の前に現れたとき、「サウルとイスラエルのすべては、このペリシテ人のことばを聞いたとき、意気消沈し、非常に恐れた。」とあります。あまりにも周りの状況とか人間の固定観念にとらわれて、それらをはるかに越えた方法で働いてくださる神様に目をむけないで、ゴリアテのように問題だけが大きく見えてしまい、意気消沈させられているのではないのでしょうか。問題は、私たちの信仰の少子化だと思います。ダビデは、上記の聖書のことばのように、神様にだけ焦点を合わせ、戦いは主がなされると信じて勇敢に戦いました。もちろん、ダビデの戦いの背後には、日頃から生活の中で神様に対する信頼、期待、ビジョンが積み重ねられていたことは言うまでもありません。

子どもたちの救いに取り組んでおられる教会や伝道所では、その地域にとけ込んだ教会のアイデアが溢れています。ダビデは、ゴリアテと戦うために用いたのは、普通、誰でもが考える槍でも剣でもありません。彼は、「川から五つのなめらかな石を選んできて、それを羊飼いの使う袋、投石袋に入れ、石投げを手にして、あのペリシテ人に近づいた。」とあります。日ごろ使い慣れた石投げ機と石で巨人ゴリアテを倒したのです。わたしたちの教会にも、日ごろ使い慣れた石があると思います。案外、私たちの中にある賜物やアイデアに気付いていない日曜学校教師もおられると思います。ただ、手をこまねいていて危機意識だけが空回りしてはいけません。今こそ、日曜学校の働きのために、あなたも立ち上がってください。そして、児童伝道は困難だと思わせ、信仰をくらませる悪魔、巨人ゴリアテを倒そうではありませんか。



関東南西教区CS教師研修会報告

日時：2006年3月21日(火・祝)

会場：篠原教会

講師：①教養講座 伊藤博師
(泉チャペル牧師)
②養成講座 白石信之師
(品川ベテル教会牧師)



教養講座

「魅力的な子ども伝道」というテーマで、伊藤師はご自分の教会の報告をパワーポイントを使いながらしてくださいました。

40数名の参加者も子ども伝道にかけてこられた先生の意気込みと教会の一致に大変感動を覚えました。特に開拓当初から子ども伝道を基本において始められ、教会が成長してからも教会全体で子どもの救いのために奮闘しておられる報告には教えられるものがたくさんありました。先生のスピリットに大変大きな励ましを受けながら、方法についても具体的なことがたくさん語られたので、各教会の子ども伝道に大変参考になりました。



養成講座



昨年、「教授法」を終えましたので、今年は「展望台から見る聖書」を白石師が担当してくださいました。

11名の受講者は熱心に先生の話聞き、最後のテストに向かいました。

祝された一日を過ごし、一同、子どもたちの救霊心に燃えて帰途につきました。

記録：藤井敬朗

九州教区 S S 教師研修会報告

日時：2006年8月15日(火)
会場：国立阿蘇青少年交流の家
講師：奥田冬樹師
(いわきアッセンブリー教会牧師)

九州教区では、8月15日(火)に国立阿蘇青少年交流の家で、いわきアッセンブリー教会の奥田冬樹師をお招きして、教師研修会を行いました。

参加者は、講師を含め16名の参加となりました。



今回は、東北で子どもたちのために力を注いでおられる奥田師に、今日までの経過と、教会学校での工夫と、今後の課題としておられることについてお話し頂きました。CBCを卒業後、ご夫妻でいわきに派遣され、全く未知の地域で取り組むのは、大変だったようです。子どもたちが、通り過ぎて行く様子を見て、特別集会を開き集まった子どもを対象に教会学校を始めるも、地域の事情などもありなかなか子どもたちが集まらないなかで、公園伝道を始められました。遊びには関わっても、教会にはなかなか足を運んでくれない子どもたちのために、関わる日を増やし、日曜日に子どもたちが少しずつ来るようになったそうです。多くの子どもたちと接していると、学年や男女でニーズが違うため、試行錯誤の連続だそうです。



いろいろと工夫し、取り組んでおられますが、今年から人数を追うのではなく、一人一人を大切に、個人的な関わりを大切にする新たな取り組みを始めておられます。

視覚教材は、パソコンを使ってゲーム感覚で子どもたちが興味を持つように、工夫されていました。参加者たちは、大変興味深く聞いていました。

また、子どもたちの管理もパソコンでしておられ、家族関係、出欠状況、ケアしたことなどが、細かく入力されていました。これは、コンピューターを専門に仕事しておられた、講師の得意分野で、私たちにも参考になることがたくさんありました。

講義の中で、教会に中心的に来ていた子どもの過程に起こったショッキングな出来事を聞き、私たちも大きなショックを受けました。その中

で、奥田師は「もっと両親と関わっていればよかった」と後悔しておられることを話して下さいました。私たち教師にとっても、子どもたちの家庭になかなか踏み込めない難しいところですが、大変考えさせられたことでした。このことから、今後は子どもたちの親との関わりを持って行く事を今後の課題として挙げて下さいました。講義の後、質疑応答の時間を持ちました。親との関わりについて、教会員との連携について質問がありましたが、快くお答え下さいました。実際の現場からのお話は、教師たちにとっては大きな励ましとなりました。今後も、九州教区では教師たちの助けになる研修会を計画していきたいと思えます。

記録：生武のぞみ

関西教区CS教師セミナー報告

日時：2006年9月23日(土・祝)

会場：御影神愛キリスト教会

講師：杉本玲子師(町田クリスチャンセンター)



さる9月23日(土)、御影神愛キリスト教会において、杉本玲子師(町田クリスチャンセンター)を講師に迎え、午前10時より午後3時まで行われた教会学校教師セミナーの報告をします。



関西教区から14教会(うち1教会は、他教団)、45名の教会学校教師が集まりました。参加者の中には、ちょうど子どもの運動会とスケジュールが重なり、運動会とセミナーを掛け持ちながらも学ぶという強者もいました。セミナーは、『体験学習を取り入れた教会学校』と題して、午前中は「聖書に見られる体験学習」という講義がわずかに行われると、後は参加者全員で、体験学習(ゲーム、スキット、ワークショップなど)をまず体験するというところに多くの時間が割かれました。午後は、早速学んだことを、幼稚科、小学科上・下、中高科に分かれて、同じ聖書の箇所から、体験学習を考え教師と生徒に分かれ実践するという、具体的な学びが行われました。

ゲームもただおもしろいだけの御言葉とは関係のないものではなく、どこの教会でもやっているゲームを元にしながら、それをアレンジして御言葉につながる、御言葉を学ぶことが楽しくなるようなもので、スキットも聖書に基づきながらも、

聖書物語そのままではなく、より子どもたちの日常生活で起こりうる現実をリアルに、おもしろおかしくアレンジしたものでした。(実際にインスタントラーメンを食べるといった美味しい体験もありました。)それを、教師がやって見せたり、生徒が役割分担して参加することによって、ただ一方的に聞かされ教えられるだけの学びでは得ることができない学習効果ははっきりと現れる学びでした。参加者からは、こんな教え方があったのかと目からウロコが落ちた教師もいました。

午後のグループで考えたゲームやスキットの実践も、初めてとは思えないできで、さすがは吉本新喜劇の関西。楽しく、おもしろく御言葉を伝える血が流れている教師が多いなと思われました。

質疑応答では、教会学校に多くの子どもを集める秘訣はないかという質問もあったが、その手のことに知恵を絞るなら、如何におもしろく、生徒の学習意欲を高めることができる体験学習ができるか、そのアイデアを考えることに情熱を傾けることこそ、より活発な教会学校に変わっていく秘訣だと思わされるセミナーでした。



初めに言い忘れていましたが、杉本玲子先生は、この日サングラスで登場されました。それは教会学校で子どもと真剣に遊び、ドッチボール投げをしている時に壁に激突され目にアザができたので、それを隠すものだったそうです。

参加者一同、杉本先生の子どもの救いのためなら何でもする、それも真剣に情熱を持ってというスピリットをも、そのサングラスから教えられたセミナーでした。

記録：後藤忠実

教案ガイドの紹介

教会教育部 藤井敬朗

日本アッセンブリー教団にはすばらしい日曜学校教案がありました。幼稚科2冊、小学下級科3冊、小学上級科3冊、中学科3冊の立派な教案です。すでに品切れになってしまったものがあり、再版を予定していませんので、教会教育部（CE部）ではかなり以前より教案についての検討を重ねてまいりました。立派な教案で市販されていますどの教案よりもすばらしいのですが、時代の流れと共にお話の内容や例話に使いにくい部分も感じられるようになりました。また、忙しい時代になったためでしょ

うか、日曜学校の先生方もできるだけすぐに使えるような教案を求め、アッセンブリー教団の多くの教会が「成長」誌を使われるようになってしまいました。

こうした現状をふまえて、CE部では新しい教案ガイドを作ること何年も話し合い、試作を繰り返し、今回やっと皆さんに提供できるところまでやってきました。

- ① 日曜学校教師が使いやすいもの
 - ② 教師も生徒もディボーションできるもの
 - ③ ワークブックもつける
 - ④ イラストをセットにしてお話ししやすいもの
 - ⑤ 電子データで提供（教師自身が手を加えられるもの）
- といったことを願って、以下のものを作成いたしました。

- (1)メッセージガイド
- (2)教師ノート
- (3)ディボーションノート
- (4)ワークブック
- (5)イラスト

これらをCE部ホームページ「こひつじ」

(URL <http://ce.ag-j.or.jp/>)からダウンロードできるようにしました。同時に(1)～(4)をエクセルやワードでも掲載し、先生方が自由に加工できるようにしました。



なお、それぞれの単元にあうイラストもお願いして描いていただきましたので、それもダウンロードしてフラッシュカードや、塗り絵、御言葉カードなどに加工していただけます。

ホームページを使えない環境の方もお待ちしておりますので、CD-ROMも差し上げることにしました。なお、ホームページで提供しますので、どんどん新しい情報、例話やイラストも掲載します。

今年のクリスマスの分から3月までは試作の段階のものを掲載しています。4月からは3年で聖書全体をほぼ網羅できるようなカリキュラムで、毎週のお話しのアウトラインを書いた「メッセージガイド (A4サイズ)」と教師自身が書き込んだり、資料が書いてある「教師ノート (A4サイズ)」、生徒が毎日聖書を読むための「ディボーションノート (A5サイズ)」と日曜日のお話の後にできる「ワークブック (A5サイズ)」、イラストを提供します。さらにディボーションノートとワークブックはセットにして「デボ博士のデボワーク」という冊子にできるようにしました。

これらはすでに各教会にお送りしました名刺のCE部ホームページ「こひつじ」に

アクセスしていただくと見ることができます。まず見てダウンロードし使ってみてください。電子化の利点を生かし、今後どんどん情報を付け加えたいと思っています。そのために実際に使った皆さんからの感想をいただいたり、例話になるお話や証をCE部まで送っていただきたいのです。

私たちは各教会の日曜学校から送っていただいています「十分の一献金」でこの部を運営していますので、この教案（イラストも）は無料で皆さんに提供することにしました。書籍化しますと莫大なお金がかかり、追加資料も難しいですが、ホームページに掲載することで資金も安くできました。むしろ資金をどんどん新しい情報、イラストを提供するために活用したいと考えています。

多くの教会から『成長』誌は福音派の意向で作られているため、聖霊に関する記述、ペンテコステ、聖霊のバプテスマがアッセンブリー教団としては物足りなくて不満である」といったご意見を聞いてきましたので、この点に関してもアッセンブリー色を出したいと思っています。

全ての教会で使っていただける良き教案にしたいと願って進めていますので、是非ご活用ください。



教会教育部への献金のお願い

教会教育部の活動は諸教会からのCS献金（原則としてCS席上献金の10分の1が初期の頃から決められていました）によって支えられています。2001年から次第に捧げてくださる教会が増え、現在約80教会が捧げてくださり、献金額も年々上昇しています。ご献金くださっている諸教会のCSに、主にあって心から感謝いたします。

これからもより多くの教会のCSがCS献金にご協力くださいますように、また教団全体のCS活動の活性化のためにさらにお祈りくださいますように心からお願い致します。

今回報告を送って下さった九州教区・関東南西教区に心からお礼を申し上げます。今後さらに多くの情報を提供していきたいと思っておりますので、各教会からの報告やアイデアがございましたらCE部（教会教育部）までお送り下さい。

日本の子どもたちの救いを祈り、各教会のCSの働きのために祈ります。

教育局長：川上良明　CE部：藤井敬朗　和田佳士　奥田冬樹　細田裕介